	大項目	評価項目	根拠資料	5段階評価	評価理由、取組內容、補足事項
<ul> <li>最近、予知日間</li> <li>の日本の地域の地域である。 (中央) (中央) (中央) (中央) (中央) (中央) (中央) (中央)</li></ul>	教育理念・学修目標		内」(本学の求める教員像) ・本学の教育方針 (3ポリ シー) ・教職ポートフォリオ ・令和5 (2023)年度採用 教	3	する教職ポートフォリオにも掲載している。 ・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに照らして、各学科で求められる語学
関係の政権の目的の対策を対する のの対象の原理しの状態  「関係の政権の関係というとは、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対				3	
### (1995年の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の				4	進路状況を把握し、教職課程委員会で報告することにより、毎年確認している。また、学生の学修成果について、教育実習日誌や教職ポートフォリオを各教員が確認し、コメントをするなど、質的な達成状況の確認にも努めている。 ・専科指導優先実施教科特例による小学校二種免許課程の設置が可能になることを踏ま
# 機能技術研究業業科工会 (			内」(再掲) ・Campus web ・シラバス(教育方法論・ICT 活用、教職実践演習) ・科目改定に関する教職委員	4	キュラム内で再定義し直し、新たに英米語学科の英語教育学コースと連関させるなど、適 切に教育課程を編成している。
### 2015年   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日				5	<ul><li>・教職共同研究室を設け、教員による相談時間も設けるとともに、関連書籍の充実に努めている。</li><li>・模擬授業実施・アクティブラーニング授業実施のため、壁面2面ホワイトボードやディ</li></ul>
1 C T の返用影響力など、各自自主機割する 業立を事態についての教育課題の体系性 2		教育課程の体系性		4	切な学年に配置するとともに、3年次以降、教職課程履修者全体で受講する科目や実習系の 科目を充実させ、個々の学生にきめ細やかな指導を可能とする形で教育課程を編成してい る。 ・教科に関する科目については、2023年度カリキュラム改定に際して各学科ごとにカリ キュラムを再点検し、特にアジア言語学科・イベロアメリカ言語学科では、学科内での統 一性を高めるとともに、専攻言語と外国語コミュニケーション科目の位置づけについても 見直し、体系的な教育課程編成に努めている。 ・教育実習の指導担当教員と教職実践演習のクラス分けを関連付け、一貫した指導ができ
製売利用の機能を発展している。  ・ 教育課程の充実・見直しの状況  佐名の投棄利目の別達目標の設定状況  を教育課程の充実・見直しの状況  佐名の投棄利目の別達目標の設定状況  佐名の投棄利目の別達目標の設定状況  佐名の投棄利目の別達目標の設定状況  クラバスの作成状況  アクティブ・ラーニングや1 C T の活用など  新たな手急の導入状況  アクティブ・ラーニングや1 C T の活用など  素観要と観音を表している。 ・ 教育の表の情報を表している。 ・ 教育の表の情報を表している。 ・ 教育の表の情報を表している。 ・ 教育の表の情報を表している。 ・ 教育の表のでは、実践を表している。 ・ 教育の表のでは、実践の関係に関するともに、初度研究を説明に努めている。 ・ 本書のであるともに、初まずのと表し、表面であるともに、初まずのと表し、表のでは、投棄利目の目のできる時に多めている。 ・ 本書のできるは、大学としての情報がは、必要な母素の概念 ・ カルキュッルをするはか、「D E動の一環でシラバスを表している。 ・ 生態に関本を含しかに、全ての同の検索対話。成類呼吸系を表しましている。 ・ 生態に対している。 ・ 生態に関するともに、教育が経験を表した。としている。 ・ 生態に対している。 ・ 生態に対している。 ・ 生態にいる。 ・ 生態になるときに、発酵であるともに、初までは、実践の関係に関するとなりに、発酵では、発酵である。 ・ カルキュッルをするはか、アロ語の特別を表した。としている。 ・ 生態にいる。 ・ など、大学となどのがにより十分な技能力が与われていることとしていて、 ・ 教育を表したとして、教育を表している。 ・ 生態を表したが表しましている。 ・ 生態を表している。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、初回改集を表しているが表している。 ・ ときいできた。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、初回改集を表している。 ・ ときに、かにおいて、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				4	もに、2022年度から設けられた「教育方法論・ICT活用」においても、理論的側面に加えて、模擬授業を多く活用し、これらの相乗効果で学生に質量ともに十分な学修を積ませている。 ・教職実践演習の授業では、教科教育法の担当教員と教職科目の担当教員の双方が授業担
# 中生企業的必及生たに、事效言語と外国語コミューケーション利目の位置づけについても 見違し、体系的な教育課程施成に対めている。(開発) ・ 字部商事業務・コアリキョンは、大学としての債用方件(がリソー)を開まえて各种 自の別連目標を定め、シラバスに明記するとともに、会科目の別記度策でも説明に対めている。 ・ カリキョンはポリシーや制能課程を体がよりキョラは、投資料目の目 的と別連目標を使かし、全なの回の授助がは、践野経知目の関助と接ても認用の間 かと別連目標本等的もいた。全な回回の提加計は、践野経知性を共和している。 ・ 必要問でフラバスチェックをするほか、FD活動の一様でシラバス作成の回意事項を共和している。 ・ 必要問でフラバスチェックをするほか、FD活動の一様でシラバス作成の回意事項を共和している。 ・ 必要問でフラバスチェックをするほか、FD活動の一様でシラバス作成の回意事項を共和している。 ・ 必要問でフラバスチェックを支付している。 ・ 必要問でフラバスチェックをするはは、FD活動の一様でシラバス作成の回意事項を共和している。 ・ シラバス作成をピューアル ・ 出帯自生を開始している。・ シークを送用している。・ と、のような歌組により中分を提案が対象われていることについて、 ・ で、他に関するが表現を受験した学生等から、多くのフィードバックを受けている。 ・ 一般に関する対象を受験した学生等から、多くのフィードバックを受けている。 ・ 一般に関する企業的な関係を受験した学生等から、多くのフィードバックを受けている。 ・ 一般に関係が関係と対象に対したい。 ・ を関係実践が変わっては、実習を関係が考えると話に、投票料目を見はている。 ・ 一般に、関の世界を提供上の反応を受け、ライカのから新研究を受けている。 ・ 事前指導・事態用やが能度実施業でする、手展界での診断維急を表明による講話など、他がなを教育用を必要を対象に対している。 ・ 全部的な実践神器基準・評価を変かで学生を発達していく不定。 ・ 全部的な実践神器基準・評価を変かで学生に同知したり、ホームページで 公職計画に関する主き物の構築 を、明らかにするための情報の設定及が達成技能 を、対点の表現の主意を表現としている。 ・ 全部的な実践神器基準・評価を変かで学生に同知したり、ホームページで 公職計画に関する主意が対象を表現している。 ・ 全部的な理解の記述を記述を表現していて、全部機ののが表現を表現していて、の意味を表現している。 ・ 全部的な理解のであるに対しるの語を表現、都治所は、私立学校の教育性 について) ・ 実施が、野川のが表にとないできた。 ・ を、学の表の事のが表がまたできるは、その意味を表現していて、こ ・ 表面表があるのでできるはとしているが、2018年度を表現としている。 ・ で、学術成集のの語を上でいまし、知识性に努めている。 ・ で、学術成集のがおのだので学が成果と特に関している。 ・ での、学術成集の可能を定している。 の連続とも近の、の連続とも近い、の連続とあるので学が、 を持定の方法について、会話を表れている。 ・ で、発展表の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学術表集の可能を定しているが、2018年度を表ましているが、2018年度を表現している。 ・ での、学術表集の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学術表集の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学術表集の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学術表表の表現を表すでできたができたができためできたができたいできた。 ・ での、学校を表の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学校表の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学校表の可能を定しているが、2018年度を表現している。 ・ での、学校表の可能としているが、2018年度を表現している。 ・ での、学校表の可能としている。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現としている。 ・ での、学校を表現としている。 ・ での、学校を表現としている。 ・ での、学校を表現としている。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現としている。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現るとしている。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。 ・ での、学校を表現している。		いわゆるキャップ制の設定状況		3	めた実質的な学修時間の確保に努めている。 ・教科に関する科目については、2023年度カリキュラム改定に際して各学科ごとにカリ
日の対達目標を定め、シラバスに明記するとともに、各科目の初回投業でも説明に努めている。		教育課程の充実・見直しの状況		4	一性を高めるとともに、専攻言語と外国語コミュニケーション科目の位置づけについても 見直し、体系的な教育課程編成に努めている。(再掲)
シラバスの作成状況  ・シラバス(教育事前事後来 アクティブ・ラーニングや1 C T の活用など 語、たび活用など、 語、たび活用など、 語、たび活用など、 ・シラがス(教育事前事後来 語、を手法の導入状況  ・シラバス(教育事前事後来 語、を手法の導入状況  ・シラバス作成マニュアル ・指導担当教員一覧  ・かり、数で、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、		個々の授業科目の到達目標の設定状況	習、教職実践演習、教育方法 論・ICT活用など) ・シラバス作成マニュアル	4	目の到達目標を定め、シラバスに明記するとともに、各科目の初回授業でも説明に努めて
アクティブ・ラーニングやICTの活用など 前たな手法の導入状況  型々の授業科目の見直しの状況  型々の授業科目の見直しの状況  型々の授業科目の見直しの状況  型々の授業科目の見直しの状況  製職実践演習及び教育実習等の実施状況  数職実践演習及び教育実習等の実施状況  数職実践演習及び教育実習等の実施状況  数職実践演習及び教育実習等の実施状況  数職実践演習及び教育実習等の実施状況  支援評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況  表規評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況  変換に需要の指揮を表している。  本学的な展開学を表していま、実際使開拓ガイダンス、実施前のガイダンス等全体的な指導に加え、全員に実習面前に個別指導を実施する、実習中に指導教員や大学教務部にメールや電話ですぐに連絡が取れる針目を制度する、実習中に指導教員や大学教務部にメールや電子ですくに連絡が取れる針目を制度する、実習中に指導教員や大学教務部にメールや電子ですくに連絡が取れる針目を表している。  表規評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況  表規評価に関する主要的な基準の策定・公表の状況  表規評価に関する主要の構築  ・学生便覧(試験及び学力評価について)。  ・全学的な展開評価基準・評価を定めて学生便覧等で学生に周知したり、ホームページで公開している。 ・全学的な教学でセスメント部会において、今後成績分布状況等を確認していく予定。 ・学科の方針によっては、必修科目の単位取得判定について、科目担当教員に取らず学科全体の判断をするなど、実験性の担保に努めている。 ・全等的な教学でセスメント部会において、今後成績分布状況等を確認していく予定。 ・学科の方針によっては、必修科目の単位取得判定について、利目担当教員に取らず学科全体の判断をするなど、実験性の担保に努めている。 ・全等的な教学でセスメント部会において、今後成績分布状況等を確認している。 ・全等的な教学でセスメント部会において、今後成績分布状況等を確認していて、予定、・学科の方針によっては、必修科目の単位取得判定について、利目担当教員に関いすず学全体の判断をするなど、実験性の担保に努めている。 ・学の教員条件取得者は全て本学独自の語学基準(TOEIC730等)の達成を必須としており、多観が、明示的な形で学修成果を担保している。 ・その他、学修成果の可視化及び履修指導のため、教職ボートフォリオを導入し、2年次以上の学生については年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めている。 ・表観が成れていては年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めている。 ・表観が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めていて、配点も含めラブスで定めるとともに、初回授業等でも説明		シラバスの作成状況		4	的と到達目標等を明らかにし、全ての回の授業計画、成績評価基準、必要な授業準備等必 須の記載事項を担当教員が漏れなく記載できるよう、シラパスの記載方法等をマニュアル 化している。 ・教員間でシラパスチェックをするほか、FD活動の一環でシラパス作成の留意事項を共有
個々の授業科目の見直しの状況  3				5	ワークを活用している。このような取組により十分な授業力が培われていることについ
が職実践演習及び教育実習等の実施状況  加え、全員に実習直前に個別指導を実施する、実習中に指導教員や大学教務部にメールや電話ですぐに連絡が取れる体制を構築する、千葉県下での訪問指導を実施するなど、教職担当教員が生体的に関与し、きめ細やかな指導を行っている。 ・事前指導・事後指導や教職実践演習では、教育委員会や本学出身の先輩教員による講話など、様々な教育現場の状況を知る機会を設け、各方面から高い評価を受けている。 ・事的指導・事後指導や教職実践演習では、教育委員会や本学出身の先輩教員による講話など、様々な教育現場の状況を知る機会を設け、各方面から高い評価を受けている。 ・会学的な成譲評価基準・評語を定めて学生便覧等で学生に周知したり、ホームページで公開している。 ・全学的な成譲評価基準・評語を定めて学生便覧等で学生に周知したり、ホームページで公開している。 ・全学的な数学アセスメント部会において、今後成議分布状況等を確認していく予定。 ・学科の方針によっては、必修科目の単位取得判定について、科目担当教員に限らず学科全体の判断をするなど、客観性の担保に努めている。 ・教員委成について、教員免針取得者を概な50-60名程度、都道府県・私立学校の教員採用試験合格者を15~25名程度を目標としているが、2023年度免許取得見込者についても同目標を達成することができた。 ・本学での教員免許取得者を優れ50-60名程度、都道府県・私立学校の教員採用試験合格者を15~25名程度を目標としているが、2023年度免許取得見込者についても同目標を達成することができた。 ・本学での教員免許取得者は全て本学独自の語学基準(TOEIC730等)の達成を必須としており、客観的・明示的な形で学修成果を担保している。 ・その他、学修成果の可視化及び履修指導のため、教職ポートフォリオを導入し、2年次以上の学生については年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めている。 ・ が議評価の方法について、配点も含めシラバスで定めるとともに、初回授業等でも説明		個々の授業科目の見直しの状況		3	げることができるよう、授業科目を見直している。 ・今後は、個々の授業教員が授業科目の見直しを行うことについて仕組化し、より適切な
成績評価に関する全学的な基準の策定・公表 の状況		教職実践演習及び教育実習等の実施状況		5	加え、全員に実習直前に個別指導を実施する、実習中に指導教員や大学教務部にメールや 電話ですぐに連絡が取れる体制を構築する、千葉県下での訪問指導を実施するなど、教職 担当教員が主体的に関与し、きめ細やかな指導を行っている。 ・事前指導・事後指導や教職実践演習では、教育委員会や本学出身の先輩教員による講話
交換評価に関する共通理解の構築   ・学年便覧(試験及び学力評価 について、教員発育の目標の達成状況 (学修成果の把握・可視 化			について) ・教職ポートフォリオ	3	公開している。
学修成果の把握・可視 化 教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を 明らかにするための情報の設定及び達成状況 一般 就職状況(再掲) 報意呼信の状況 成就職状況(再掲) 報意呼信の状況 成就職状況(再掲) 報意呼信の表記を表記を目標としているが、2023年度免許取得見込者についても同 目標を達成することができた。 ・本学での教員免許取得者は全て本学独自の語学基準(TOEIC730等)の達成を必須として おり、客観的・明示的な形で学修成果を担保している。 ・その他、学修成果の刊程化及び履修指導のため、教職ポートフォリオを導入し、2年次以 上の学生については年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めて いる。 ・成績評価の方法について、配点も含めシラバスで定めるとともに、初回授業等でも説明		成績評価に関する共通理解の構築		3	・学科の方針によっては、必修科目の単位取得判定について、科目担当教員に限らず学科
成績評価の方法について、配点も含めシラバスで定めるとともに、初回授業等でも説明 3		教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を 明らかにするための情報の設定及び達成状況		5	用試験合格者を15~25名程度を目標としているが、2023年度免許取得見込者についても同 目標を達成することができた。 ・本学での教員免許取得者は全て本学独自の語学基準(TOEIC730等)の達成を必須として おり、客観的・明示的な形で学修成果を担保している。 ・その他、学修成果の可視化及び履修指導のため、教職ポートフォリオを導入し、2年次以 上の学生については年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めて
		成績評価の状況		3	

大項目	評価項目	根拠資料	5段階評価	評価理由、取組内容、補足事項
教職員組織	教員の配置の状況	· 文部科学省提出 変更届 · FD関係資料	4	・「教育の基礎的理解に関する科目等」と「各教科の指導法」を担当する専任教員を合計 6名、教科に関する専門的事項に関する専任教員を名学科専攻での必要数を大幅に超える 数*配置し、教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。 ・ 英米語学科: 25、アジア言語学科(英語): 5、イベロアメリカ言語学科(英語): 6、 国際コミュニケーション学科: 11、中国語: 5、韓国語: 5、スペイン語: 6 必要数は各 3
	教員の業績等		4	・科目担当時に必要な研究業績を満たしているかを確認したうえで、教授会の承認事項または報告事項としている。関係業績を多く保有する研究者、学校現場での実務経験者の両方を専任教員として位置づけている。
	職員の配置状況		3	・主担当の職員1名、補助職員3名を配置し、教職課程における専門的な知見の共有に努めている。
	FD・SDの実施状況		3	・教職関係のFD・SD活動としては、私立大学教職課程研究連絡協議会の研究会等に参加する等により、情報収集に努めている。今後は、教職課程委員会を通じ、学内の教職科目担当者等への情報共有等も課題となる。
	授業評価アンケートの実施状況		3	<ul><li>教職課程の科目を含め、本学の全ての授業科目について授業評価アンケートを実施し、 結果を各教員に配布して、授業科目の改善に努めている。</li></ul>
情報公表	学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号) 第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行 規則第22条の6に定められた情報公表の状況	・本学ホームページ(情報公表) https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/ ・本学ホームページ(教職自 己点検評価) https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/fl/t_training/	3	・本学ホームページ「2-7:教員の養成の状況についての情報」で法令上求められている情報公表に対応している。教員の養成の目標を達成するための計画について、より具体的な事項を公開できるようにすることが今後の課題となる。
	学修成果に関する情報公表の状況		4	・学校種別の教員就職状況を明確に公表している。
	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表 の状況		4	・「神田外語大学 教職課程における自己点検・評価の方針」に則って、毎年度自己点検・ 評価チェックシートを記入し、教職課程委員会で承認後、ホームページで公表している。 また、中期評価期間(4年間)終了後には評価結果報告書を取りまとめ、同様に公表する。
教職指導(学生の受け 入れ・学生支援)	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組 の状況	・本学ホームページ https://www.kandagaigo.ac.j p/kuis/main/faculties/fi/Ltr aining/ ・年度初めガイダンス資料 ・教職共同研究室資料	5	・本学ホームページやパンフレットで、入学前の高校生・志願者に向けて、教職課程の取組や履修科目、実際に就職した学生のインタビューなどを掲載しており、神田外語大学卒業生の進路の一つとして英語教員が選ばれていることを広く発信している。 ・在学生には、新年度に学年別に毎年ガイダンスを実施し、特に1・2年次生向けには、教員として働くことの魅力や本学で教員免許を取得することの利点などを伝え、教職課程の履修を促す取組をしている。
	学生に対する履修指導の実施状況		5	・学修成果の可視化及び履修指導のため、教職ポートフォリオを導入し、2年次以上の学生 については年1回担当教員が確認をするなど、学修成果の把握・可視化に努めている。 (再掲) ・低学年時には教務部窓口で時間割相談等にきめ細かく対応して、留学や日本語教員養成 課程との両立等に向けたアドバイスも行う。3年次後期には意思確認と計画的な履修指導の 観点から、学科専攻の教職担当教員と教職科目の担当教員による教職ポートフォリオ面接 を実施している。
	学生に対する進路指導の実施状況		5	<ul> <li>教育事前事後実習等の授業内で、現職教員の先輩学生による講義や教育実習を終えて教職を進路として決めた先輩学生による講義を提供し、教職を志す学生への動機づけの機会としている。</li> <li>教員採用試験対策講座やチームティーチングの練習会、指導案や志望動機書の個別添削により、教職を志す学生へ手厚く指導を行っている。</li> </ul>
関係機関等との連携	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の 状況	・教職事前事後実習の実施日 程	5	- 教職科目内の取組としては、教育事前事後実習等の授業内で、県内の高校教員や教育委員会の職員を招聘講師として講話をいただいている。正課外の取組としては、千葉県教育委員会による出前講座を開催し、千葉県の求める教員像や教育現場の実情、雇用条件などについての説明を受けている。これらを両輪として、学生の教職に対する理解促進、地域の教育課題の共有に努めている。
	教育実習等を実施する学校との連携・協力の 状況		4	・千葉県下での訪問指導を実施し、実習校との関係構築に努めている。 ・教育実習以外にも、学習支援ポランティアの活動を通じ、学生の学校現場での体験活動 を推進している。具体的には、県内の小学校等における学習サポーター等の活動とその報 告を単位化したり、いわゆるインターンとして県が実施する「教職たまごプロジェクト」 への学生参加を支援している。
	学外の多様な人材の活用状況		4	・教育事前事後実習の授業では、上記の内容に加え、教育行政を担う文部科学省の担当 官、学生の不登校等に知見のある専門家、協働性を培う身体活動プログラム(アドベン チャーコミュニケーションプログラム)の専門家など、学外の多様な人材の知見から学生 が学ぶ場を設けている。

## 評価符号

- 5 通常求められる水準を大きく超え、抜群の実績をあげた 4 通常求められる水準を十分に上回った 3 通常求められる水準通りの実績であった 2 通常求められる水準に満たず、更なる工夫が必要であった 1 通常求められる水準を大きく下回り、相当の努力が必要であった